

ラブラプセブ国際大学（LCIC）への視察研修報告書

GC 学科 嘉島 叶人

視察研修期間	2024 年 9 月 8 日（日）～2024 年 9 月 14 日（土）
視察研修先	ラブラプセブ国際大学（LCIC）

【視察内容】

1. 理事長・学長表敬訪問

2024 年 9 月 10 日（火）に、理事長武田義輝先生および Grace 学長先生を表敬訪問し、大学の入り口に掲げられた「Our Vision」（大学のビジョン）、「Our Mission」（ミッション）、「Our Goals」（目標）、「Our Institutional Outcomes」（期待される成果）、「Our Core Values」（コアバリュー）についてより深く理解できた。特に「Our Core Values」において、以下の意義を再認識した。

LCIC is Leadership built on Competence, Innovation, and Compassion. These are the core values that LCIC believes in:（筆者和訳 LCIC は、能力、イノベーション、思いやりに基づいたリーダーシップを重視している。

これらは本学のコアバリューである）

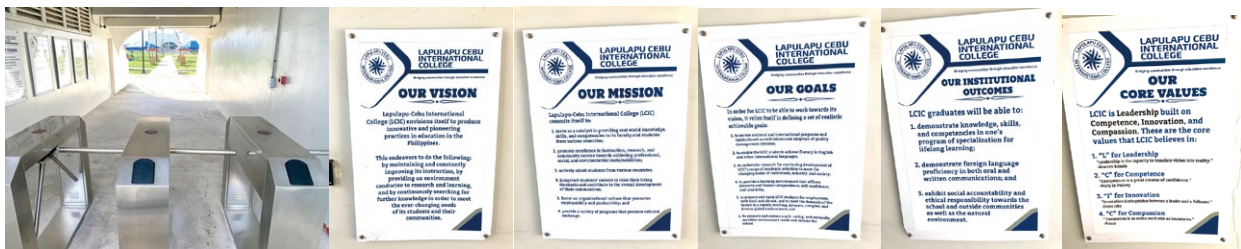
“L” for Leadership（リーダーシップ）

“C” for Competence（能力）

“I” for Innovation（イノベーション）

“C” for Compassion（思いやり）

これらの価値観は、LCIC の教育方針や運営において重要な指針となり、特にグローバルな視野を持った学生の育成において重要な役割を果たしていることが理解できた。



Grace 学長先生を表敬訪問

2. 大学の施設について

2.1 キャンパス内の主要な施設

①学生寮

キャンパス内にある学生寮を見学し、マネージャーの SATOSHI さんに案内していただいた。GC 学科卒業生の北野さんが LCIC の職員として活躍している姿を拝見した。

学生寮には入構ゲートが設置されており、学生は ID カードをスキャンして入寮することができる。寮母は 24 時間常駐しており、学生の生活をサポートしている。施設内には洗濯機や大浴場、サウナが完備されており、また、露天風呂からは空港を一望することができる。



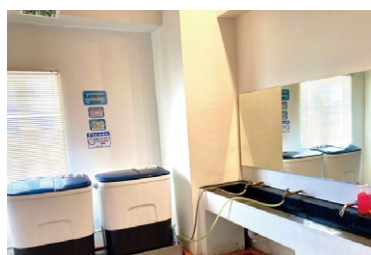
SATOSHI さん



北野さんと筆者



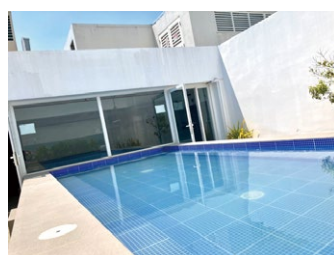
入構ゲート・寮母



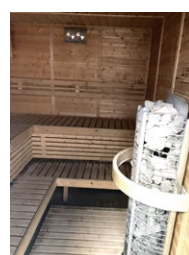
洗濯設備



大浴場



露天風呂



サウナ

部屋については、10 人 1 ユニットのシェアハウス型の形式が採用されており、留学生が個室に閉じ込められることなく、積極的に外に出て他の学生との交流を促す仕組みが整っている。また、留学生には小さな個室が提供され、個室中でも他の学生との関わりを持ちやすい環境が作られている。

シャワーの水圧は非常に強く、快適に利用できることが確認されている。トイレの仕様についてもユニークで、ウォシュレット機能が完備されており、ドアを開けると自動的に蓋が開く仕組みになっている。そして、保健室や歯科医院が完備されている点には驚かされた。さらに、両替 ATM が設置されており、学生の利便性も考慮されていることが分かった。



留学生の部屋（全員個室）



共同スペース



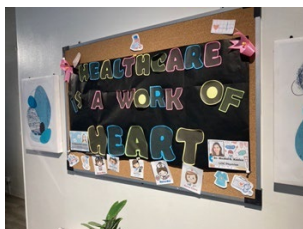
フィリピン人学生の部屋



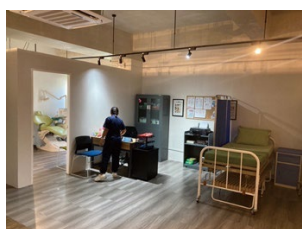
シャワー



ATM



保健室①



保健室②



保健室③



歯科

②食堂

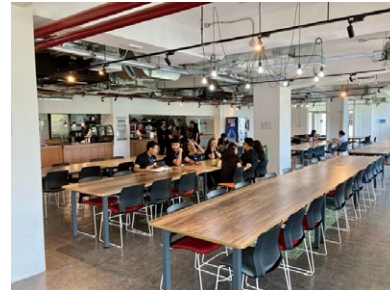
食堂では、フィリピン料理のほか、留学生向けに毎日選べる4種類の定食が提供されている。学生たちは、窓口の番号ごとに並び、指定された位置で食事を受け取ることができるため、スムーズに食事が提供されるシステムとなっている。当日のメニューには、チキンレモンペペロンチーノ、ビーフミラン、ポークフライドライス、冷やしそばがあり、私はビーフミランを選び、とても美味しくいただいた。また、留学中のGC学科の学生たちにも会い、元気に楽しく留学生活を送っている様子を確認することができた。



当日の定食



定食を受取る場所



食堂の風景（一部）



フィリピン料理



種類豊富なドリンクコーナー



レチョン調理エリア¹



GC 学科の岩田さん（2年）・三浦さん（3年）

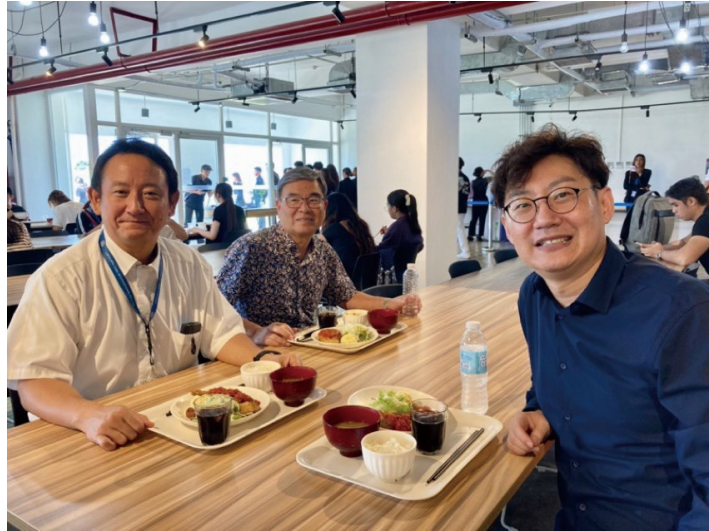


新宮さん（2年）



萱嶋さん（2年）

¹ レチョン（Lechon）は、フィリピンの伝統的な豚の丸焼きで、特にお祝い事や祭り、特別な行事でよく提供される。



理事長武田義輝先生、飯田参与とビーフミラン定食をいただく

2.2 キャンパスのセキュリティーについて

キャンパスのセキュリティーについても非常に厳重で、訪問者が入構する際には段階的な確認手続きが求められる。以下の流れで確認が行われた。

①大学の正門

大学の正門に最初の警備員が配置されており、訪問者がアポを取っているかどうかを確認する。訪問者が予約をしている場合、警備員は学内に電話連絡をし、訪問の目的を確認する。

②入構ゲートへ向かう道

予約が確認されると、次の入構ゲートへ進むことができる。この段階でも、再度警備員が待機しており、訪問者の確認が続く。

③入構ゲートでの再確認

入構ゲートでは、再度警備員が訪問者を確認し、電話で学内に再度確認を行う。この確認が取れると、来訪者記録に必要事項（来訪時間・氏名・用件）が記入される。

④スタッフの迎え

記録表を記入後、訪問者は迎えに来るスタッフが現れるまで待機する。迎えのスタッフが到着すると、訪問者は目的の場所へ案内される。



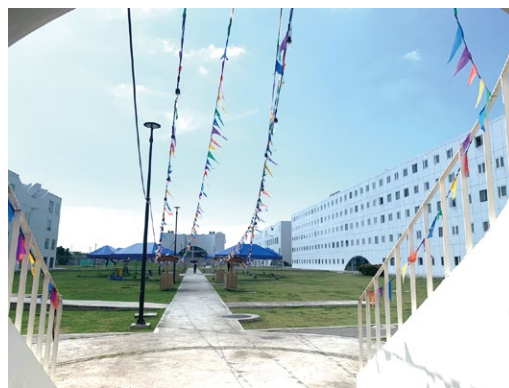
①大学の正門（警備員さんの笑顔がとても印象的だった）



②入構ゲートへ向かう道



③入構ゲートでの再確認



④キャンパス内の風景

3. 授業見学

3.1 語学教育と観光分野の授業について

LCIC では、英語教育に加えて、学生が第 2 言語として韓国語や中国語を学べる機会が提供されている。また、フィリピンの観光事情について学ぶ授業も行われており、フィリピンの観光地や文化的背景を学びながら、観光分野に対する国際的な視点を養うことができる。



授業風景 TOEIC



Filipino Travel(フィリピン観光事情)



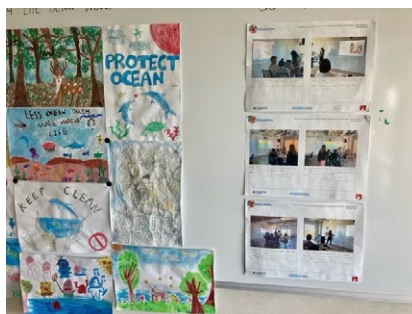
Mandarin (中国語)

3.2 SDGs 関連授業について

SDGs に関する授業では、学生たちに実際の社会課題に関心をもち、解決策を探ることを目的としたアクティブラーニングが行われている。特に、学生には廃棄物を活用し芸術作品を作成させる取り組みがあり、リサイクルとクリエイティビティを融合させることにより、環境問題に対する意識を深めている。



(筆者撮影) 学生たちの作品①



学生たちの作品②



学生たちの作品③

また、座学にとどまらず、課外授業を積極的に展開している点が特徴的である。授業の一環として、学生は実際に外部で行動する。例えば、難病や貧困に苦しむ子どもたちを支援するボランティア活動や、地域の清掃活動、環境美化のためのゴミ拾いなどが行われている。これらの活動を通じて、学生たちは国際貢献に対する理解を深め、SDGs の目標達成に向けた具体的な行動の重要性を実感している。

4. CELS (Center for English Language Studies)について

LCIC における英語教育およびカリキュラム編成、成績管理を担当する部門は、CELS (Center for English Language Studies) という英語教育センターである。CELS は、以下の理念を掲げている。

The leading international English teaching & learning institute in Cebu, devoted to incorporating innovative, transformative, & proven language instruction to meet the ever-evolving needs of the students & communities we serve while producing graduates equipped with practical academic & life skills resulting in productive, positive, & proactive local & global citizen leaders².

(和訳 学生や地域社会の変化するニーズに応えるため、革新的で実績ある語学教育の導入に力を注いでいる。また、実践的な学問的スキルと生活スキルを備えた卒業生を輩出し、地域社会およびグローバルな市民リーダーとして積極的に前向きに社会に貢献できる人材を育成している)

CELS では、フィリピン人学生と同じ校舎で英語を学ぶことができる環境が整えられており、異文化交流を通じて自然に語学力を高めることが可能である。また、CELS での単位は海外の大学でも認定可能なため、国際的な学習経験が積めるだけでなく、遠隔で日本の大学の授業を受講することもでき、学習の柔軟性が確保されている。さらに、母国語以外の言語（韓国語、中国語）の学習も可能で、多言語環境の中での言語習得を支援している。

Module C / SC 9 - SEPTEMBER					
Sep 2 - 27	MONDAY	TUESDAY	WEDNESDAY	THURSDAY	FRIDAY
PERIOD 1 - 8:30 10:00	Pronunciation Skills Japanese / Filipino	Listening & Speaking	Pronunciation Skills Japanese / Filipino	Listening & Speaking	Pronunciation Skills Japanese / Filipino
PERIOD 2 - 10:10 11:40	Listening & Speaking	Filipino Travel Mandarin (Chinese)	Listening & Speaking	Pronunciation Skills Japanese / Filipino	Filipino Travel Mandarin (Chinese)
LUNCH - 11:50-12:40					
PERIOD 3 - 12:50 14:20	TOEIC S & W / SDGs for EFL Korean	English Communication Skills Korean	Filipino Travel Mandarin (Chinese)	English Communication Skills Korean	TOEIC S & W / SDGs for EFL Korean
PERIOD 4 - 14:30 16:00	Filipino Travel Mandarin (Chinese)	TOEIC S & W / SDGs for EFL Korean	English Communication Skills Korean	TOEIC S & W / SDGs for EFL Korean	English Communication Skills Korean
PERIOD 5 - 16:10 17:00	One-on-One / Student Buddy	One-on-One / Student Buddy	One-on-One / Student Buddy	One-on-One / Student Buddy	One-on-One / Student Buddy
PERIOD 6 - 17:10 18:00	One-on-One / Student Buddy	One-on-One / Student Buddy	One-on-One / Student Buddy	One-on-One / Student Buddy	One-on-One / Student Buddy

9月の時間割（筆者撮影）

以下に、CELS の仕組みを2つのケースから説明する。

4.1 ケース①

CELS を訪れた際、女子学生2人が職員の方に声をかけるシーンを観察した。最初、学生たちは無言で戸惑っている様子だったが、職員の方がゆっくりと親切に「First, please tell me your name, and then let me know the purpose of your visit.(和訳 まずはお名前を教えてください、そして要件をお聞かせください)」と導いていた。その後、学生たちは徐々に慣れ、会話がスムーズに進むようになった。

² CELS の公式 Facebook より引用（筆者和訳）



4.2 ケース②

1 人の男子学生 A さんに声をかけられた。A さんは非常に流暢な英語で、かつ完璧な発音で「Can I have this candy? I am from Japan. I have never seen such candy. Where are you from? (和訳 このキャンディをもらってもいいですか？私は日本から来ました、こんなキャンディは見たことがありません。どちらから来ましたか?)」と話しかけてきた。日本から視察研修で来たことを伝え、A さんはすぐに日本語に切り替え、1 週間前に愛知県から来ており、1 ヶ月間の留学だと教えてくれた。実は、私が座っていたため、A さんは私を CELS の教員だと勘違いし、机に置いていたお菓子の興味を持って声をかけてくれたようだ。

また、A さんはウォーターサーバーが置いてあるのを見て、「水を飲んでもいいですか？」と尋ねてきたので、私は「はい、どうぞ」と答えた。学生が自由に飲めることは事前に知っていたため、この返事をした。後でディレクターの Mark 先生から聞いたところ、CELS ではより多くの学生に訪問してもらうため、ここに置いてある飲み物（水やお茶など）やお菓子は、学生たちが自由に飲んだり食べたりできるシステムになっているとのことだった。



CELS の Mark 先生、Erwin 先生と学生



CELS の職員の方々と筆者

さらに、A さんと一緒に CELS を訪問したもう 1 人の男子学生が、レッスンの課題で職員の方にインタビューをしていたようだ。その後、A さんに「あのインタビューしている学生はお友達ですか？」と尋ねると、A さんは「はい、彼は韓国人ですよ。英語を毎日練習できるように、韓国人の友達ができました」と答えてくれた。

4.3 CELS の教育方法について

CELS では、学習の効率を高めるために、いくつかの特徴的なアプローチを取り入れ、多様な手段を活用していることが確認された。具体的には、以下の方法が実施されている。

①学生用ホワイトボード

授業中に小さめなホワイトボードを学生に配布し、積極的に使用している。例えば、クイズや簡単な質問への回答をボードに書くことで、個別の理解度を確認することができる。このアプローチは、学生の参加意識を高め、クラス全体の学習効果を促進する。

②鏡を使った発音トレーニング

学生一人ひとりに鏡を配布し、発音トレーニングを行う。鏡を使用することで、学生は自分の唇の形を視覚的に確認しながら発音の練習ができ、正確な発音を習得することができる。

③ゲーミフィケーションの活用

ジェンガのようなゲームが授業に取り入れられている。ゲーミフィケーションの要素を活用することで、学習がより楽しく、動機づけられる。Mark 先生によれば、特に言語学習においては、ゲームを通じて単語やフレーズを記憶することができ、会話の練習を行うことで、自然な形で学習内容が定着するとのことである。



学生用ホワイトボード



多様なゲーム



Mark 先生による鏡を使った発音トレーニングの実演



CELS の先生からチーズケーキとコーヒーをいただきました

どうもありがとうございました！

4.4 所見

CELS での所見を通して、学生たちが英語を実践的に練習できる環境が整っていることが実感できた。特に、自由に飲み物やお菓子を楽しめるシステムが設けられており、学生が自然に集まり、リラックスした状態で英語を使う場が提供されている点が印象的であった。

さらに、他国の友達を作ることが、英語で交流する環境を作り出している点も重要である。言語の壁を越

えて、友達同士で英語を使ってコミュニケーションを取ることで、学びの場が広がる。このような多国籍な交流は、学生たちにとって貴重な経験となり、英語の実践的な使用を促進する素晴らしい機会となるだろう。

5. Student Buddy System について

LCIC では、留学生とフィリピン人学生が「Student Buddy System」によって交流を深め、語学を自然に身に付ける機会を提供している。このシステムの特徴は、異文化の学生同士が 1 対 1 のペア（Buddy バディ）を組み、一定の時間を共に過ごす点にある。リラックスした環境の中で対話を重ねながら、相互に課題を解決することで語学力を向上させることを目的としている。

- ・実施時間 平日 16 時～18 時
- ・実施場所 キャンパス内のバスケットボールコートや共用スペースが多く利用され、自然なコミュニケーションが生まれる環境づくりが行われている。
- ・仕組み ランダムマッチング
専用のシステムを利用し、毎日異なる留学生とフィリピン人学生をランダムにペアリング

ランダムマッチングシステム³



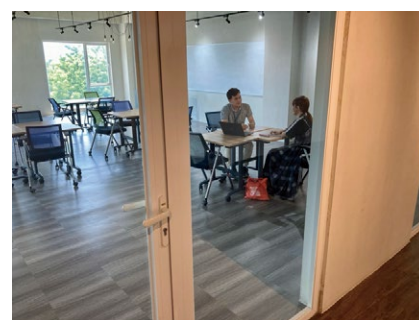
Student Buddy System の風景①



Student Buddy System の風景②



Student Buddy System の風景③



Student Buddy System の風景④



楽しく「Student Buddy System」を利用している GC 学科 2 年の柴崎さんと来海さん

³ LCIC Student Buddy System

6. 視察研修成果について

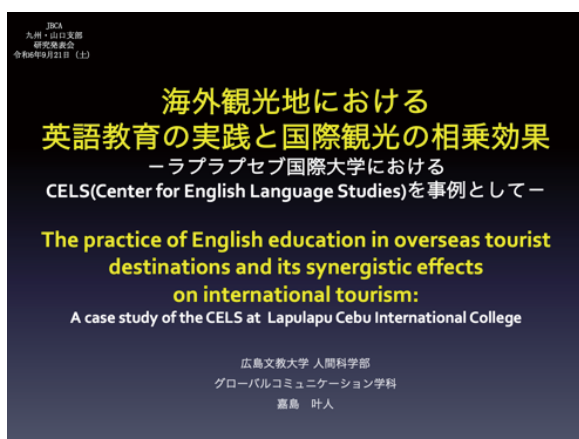
6.1 学会での発表

今回の視察研修で得た成果に関しては、9月21日に開催された国際ビジネスコミュニケーション学会(Japan Business Communication Association, 略称 JBICA⁴)にて報告した。同志社大学、東京富士大学、西南女学院大学、福岡大学、福岡女学院大学、九州産業大学などの英語教育や観光分野の教員や研究者が参加し、発表テーマは以下の通りである。

「海外観光地における英語教育の実践と国際観光の相乗効果」

－ ラプラプセブ国際大学における CELS (Center for English Language Studies) を事例として

この発表では、ラプラプセブ国際大学における CELS を事例として、海外の観光地における英語教育の実践的な手法とその効果を探求した。学生たちは、CELS での英語教育を受けながら、セブでの観光体験・カルチャーツーリズムを通じて実践的な英語スキルを身につけ、異文化理解も深めている。また、Buddy System や他の学生との交流により、学びの楽しさが強調され、英語力向上が促進されることが確認された。学会に参加した先生からは、「セブには英語を学ぶ言語学校はたくさんあると知っているが、大学としてこのように優れた英語教育を提供する機関があることを初めて知った。自分の学生にもぜひ体験させたい」とのコメントをいただいた。また、観光地で学んだ英語を使うことで「生きた言語」の習得がより深まる重要性についても言及され、実際の体験を通じて学びを深めることが非常に大切であるとの意見もあった。



6.2 授業での活用

視察研修で得た知見、写真、動画などを授業で学生たちに紹介したところ、多くの学生から「すぐにでもセブに行きたい」といったコメントがあった。この反応は、観光のみならず、英語学習にも関心を持ってもらうきっかけとなった。特に、現地での文化や観光を学ぶことが、学生たちの英語学習意欲を高め、実践的な英語力向上への刺激となったと感じている。

今後も、英語教育と観光分野の知識を融合させた授業コンテンツを充実させ、学生が国際観光分野で活躍するための基盤作りを進めていきたいと考えている。

最後に、今回の LCIC 視察研修において、貴重なお時間を割いてくださった武田義輝理事長先生をはじめ、Grace 学長先生および LCIC の教職員の方々に心より感謝申し上げます。

⁴ JBICA は、国際取引と国際経営におけるコミュニケーションの研究に特化した学会で、90 年の歴史を持ち、日本学術会議に認定されている。